



## 2 排水対策（排水溝施工）

大豆は、湿害にあう出芽不良や収穫時まで丈が低く抑えられ収穫作業に苦勞する上、減収します。また、最下着莢位置が下がったり、成熟期に茎水分が低下しにくくなり汚損粒による品質低下につながります。

このため、排水対策による苗立ち確保や生育の健全化は、品質向上および収量確保に不可欠です。

【排水対策のポイント】 ～明渠から排水口まで「水」の流れをすべて繋げる～

### (1) 地表水の排水

#### ① 明渠の施工

- ・迅速な排水を促すため、深さは30～40cm程度の周囲明渠（畦畔際の明渠）は必ず施工し、排水口に確実に繋げる。
- ・排水不良のほ場では、さらにはほ場内明渠を5～10m間隔で施工する。

#### ② ほ場内排水溝の設置

- ・ほ場を均平化し、畝立てでほ場内排水溝を設置し周囲明渠に連結する。

### (2) 地下水の排水

#### ① 本暗渠の機能維持

- ・暗渠の落水口や水閘、止水弁や排水の状況を確認する。
- ・暗渠管が泥などで詰まり排水不良の場合は、除去する。

#### ② 補助暗渠の施工

- ・排水不良圃場では、弾丸暗渠を2～3m間隔で本暗渠と交差させる（特に粘土質の圃場に有効）。深さは周囲明渠と同程度とし接続させる。
- ・透水性・通気性を高めるため、サブソイラーによる心土破碎（全ての土壌に適応）を4m程度の間隔で実施する。
- ・施工効果を高めるため、できるだけ土壌が乾いているときに実施する。

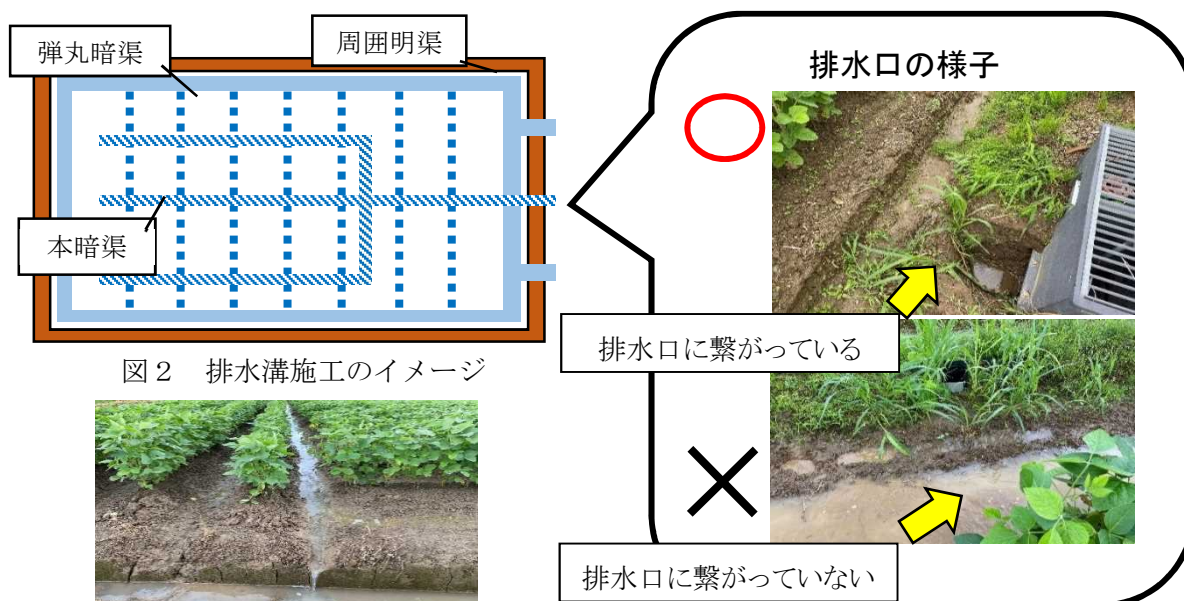


図2 排水溝施工のイメージ



図3 畝間を周囲明渠に連結